

# でんでんくん



でんでんくん



きぬたくん



つちこちゃん

発行：きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）

## 今こそ一人一人の子どもを大切にした教育を

特別支援教育アドバイザー 佐藤 淳

ロシアによるウクライナ侵攻のニュースを、子どもたちもテレビやインターネット等で見聞きしていることでしょうか。子どもたちは何を思い、学んでいるのでしょうか。

子どもにとって大人は自分を守ってくれる、様々なことを教えてくれる存在であり、大人のやることや言うことの影響を受けやすいと言われていています。今こそ、一人一人の子どもを大切にした教育を行い、子どもたちに正しい生き方を示し安心させる必要があるのではないのでしょうか。



子どもたちは、私たち教員の言動をよく見ています。障害のある子どもを少しでも笑ったり、対応を面倒くさがったりすることなく、あたりまえのように必要な支援を行う姿を見せる。そして、障害の有無に関係なく「どの子にも（あなたにも）必要があれば支援するよ」ということを伝える。教員同士のやりとりの際にも、相手の人権人格を尊重する姿勢を見せる。このように、私たちが人権人格を尊重し、教育愛をもって接することを身をもって示していくことは、子どもたちが将来平和に過ごせる社会を創ることにつながります。教育を通して平和な世界を創っていく、という使命を改めて意識したいものです。

## 難聴児の授業を担当する際の配慮点

難聴の子どもは、聴力と読話力（話し手の口元、表情を見て言葉を読み取る力）を合わせて話をききとっています。話の内容を推測してききとることもあります。現在は、コロナ感染対策でマスク着用が日常化しているため、よりききとりにくい状況に置かれています。話の内容が推測できない時は、周囲の友達の行動を見て一緒に活動したり、内容と違った受け取りをしてみたりすることがあります。そのため、状況によって、周囲の適切なサポートが必要になります。

また、きこえをサポートする補聴器は1対1の会話で使いやすいように作られているので、2mまでの距離で、正面からやりとりをするように心がけましょう。

難聴の子どもは、補聴器や人工内耳を装用しても100%聞こえるわけではなく、授業に参加するためのサポートが必要です。「難聴学級」と「通常学級」の2つに分けて、難聴の子どもに対する授業づくりのチェック表を作成しております。本校のHPよりダウンロードできますので、ご活用ください。（聴覚支援学校HP

→「きこえとことば支援センターのページ」をご覧ください。）

難聴の子どもと一緒に勉強している先生方へ 難聴学級

難聴の子どもは、聴力と読話力（話し手の口元、表情を見て言葉を読み取る力）を合わせて話を聞き取っています。しかし、常に100%聞こえ、理解できる訳ではなく、授業に参加するには、周囲の適切なサポートが欠かせません。これは、指導に当たっての基本的な配慮事項です。是非チェックしてみましょう。

学年( ) 名前( ) Aでできている Bあと少し C改善

	基本的な配慮事項	チェック
1	【補聴補助システム等の使用】 マイクを口元から15cmくらいのところに付け、スイッチを入れている。 (補聴器や人工内耳は、2m離れると、話者の声が聞こえにくくなる)	
2	【授業者の話し方】 忠実に立たないで話している。 正面から、表情や口元が見えるようにして話している。 (歩きながら話したり逆光だったたりすると、表情、口、唇、舌などがよく見えず読話しにくい)	
3	適切な音量ではっきり、ゆっくり(文館で区切るなど)話している。 (「おは-よう」と区切ったり、早口で話したりすると聞きにくい)	
4	「分かりましたか」ではなく、「何が分かったか」を確認しながら話している。 (「分かりましたか」では、本当に分かったか、何が分かったかが確かめられない)	
5	授業状況に努め、実態に応じて色々な表現の仕方をしていく。 例) 思う、考える、思考する、練る、書き出す 等々 (言葉での表現が豊かになるとともに、心も育つ)	
6	子どもの発言を受け止めつつ、正しい表現の仕方を示し、文末まで言い切るよう求めたりしている。 (正しい構文で文末まで話すことは、文法の理解や定着にも結びつく)	
7	【視覚的な情報の提示】 キーワードや主発眼、指示、子どもの発言などを、板書したり文字カードで示したりしている。(意味がなくなると、自信を持って学習活動に取り組める)	
8	読み始め、言い始めは、教科書のページを開いて指差している。 (興味を失わなくなり、自信を持って学習活動に取り組める)	
9	写真や図、イラスト等の教材を工夫している。 (理解の助けになり、イメージを出げることができる)	
10	【担任間及びコーディネーター、保護者との連携】 情報保障の仕方やタイミングを、難聴児や授業者と確認している。 文法学級や通常学級での学習内容の理解度を確かめ、おさえている。 難聴児に困り感がないか、日々、本人や担任と定期的に話し合っている。 学校での様子や予・復習してほしいこと等を、保護者に伝えている。	

年 月 日 チェックした人 ( )



## オンラインを活用した教育相談等について



当センターでは、オンラインを活用した教育相談等を昨年度から開始しました。昨年度は、定期教育相談として、保護者や担任の先生方の教育相談（児童生徒の指導を含む）を17校の小・中・特別支援学校に利用いただいた他、研修会や難聴児童担当者のオンライン情報交換会を実施させていただきました。「コロナ感染の心配がない、視覚情報があり分かりやすい、顔を合わせると安心感や親近感がもてる、移動時間が削減された」などの感想を、利用した皆様が寄せてくださっており、今年度もオンラインによる教育相談を継続して実施しています。冬期に休止していたサテライト教室なども、今年度はオンラインで実施する予定です。

今後、オンライン情報交換ルームについてもご案内の予定ですが、オンラインの支援を希望したい、また、オンラインでこんな支援があると助かるなどのご要望などがありましたら、遠慮なく『きこえとことば支援センター』までお知らせください。お待ちしております。



## 「でんでんくん」の送付、並びに掲載内容の希望から

### （掲載内容のアンケートについて）

全県の小・中・高等学校、特別支援学校から、たくさんの送付希望と掲載内容に関してご回答をいただき、ありがとうございました。

掲載内容の希望として、①具体的な学習支援 ②自立活動の実践例 ③障害理解についてのご要望が多くありました。また、補聴援助システム「ロジャー」の有効な活用方法や進路情報についてのご希望も見られました。

今号では、難聴児の授業を担当する際の配慮点やオンラインによる教育相談等について掲載しています。また「聴覚障害支援ガイド（本校のホームページからダウンロード可能）」にも、補聴器や指導の際の配慮点、Q&A方式での学習支援についての情報等、様々な内容が載っていますので、「でんでんくん」と併せてご覧ください。

今後ともご要望のあった内容について掲載していきますので、ご意見やご感想をよろしく願います。

## 南の交流会について

6月30日（木）大仙市大曲交流センターを会場に実施予定です。対象地区の方には、在籍校を通じて参加申し込み書を送付します。コロナ感染防止に配慮しながら、交流や情報交換の機会にしたいと考えています。たくさんのみなさまの参加をお待ちしています。



きこえとことば支援センター（秋田県立聴覚支援学校内）【直通携帯電話】090-8784-6302  
〒010-1409 秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

【聴覚支援学校】TEL：018-889-8572 FAX：018-889-8575

E-mail：chokaku-s\_shien@akita-pref.ed.jp